

## 令和3年度第2回おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム会議 議事概要

日時：令和4年3月22日（火）10時～12時

場所：咲洲庁舎41階大会議室（WEB会議併用）

### ■議事概要

#### （1）プラスチック流出対策分科会の取組みについて

- 事務局（大阪府エネルギー政策課）より資料1-1に沿って説明
- 株式会社ピリカ 土村様より資料1-2に沿って報告

#### 【ご質問・ご意見】

〈大阪産業大学 花田教授〉

- ・ 摩耗した人工芝はどこへ流出したのか  
⇒側溝等からグラウンド外の川への流出が確認できた他、グラウンド内への大量の蓄積も確認（ピリカ）
- ・ 人工芝のすり抜けを防ぐためには  
⇒グラウンドにより人工芝の形状や経過年数が異なり、すり抜けの状況が異なるため、グラウンドそれぞれでの対策が必要（ピリカ）
- ・ 一般的に人工芝の素材は同じか  
⇒主な素材はポリエチレン。概ね変わらないのでは（ピリカ）
- ・ 既製品と比較してコーンや買い物かごの重さはどうか  
⇒感覚的には大きさ、重さともに既製品と変わらない（事務局）

〈大阪大学 宇山教授〉

- ・ プロが使用するものなど、値段によって人工芝の素材を使い分けているのか

〈住友ゴム工業株式会社 長谷川様〉

- ・ サッカー等で使われるロングパイルタイプは、ほぼ100%ポリエチレン
- ・ テニスコートでは、近年はポリエチレンとポリプロピレンが半々
- ・ 現在ナイロンはスポーツ用ではほとんど使用されず

〈大阪商業大学 原田准教授〉

- ・ 輸入品の安価な人工芝も材質が同じなのか
- ・ 家庭用に販売される人工芝の流出防止対策は難しく、使用は抑制的な方法によることが重要ではないか

〈日本プラスチック工業連盟 加藤専務理事〉

- ・ 耐候のため添加剤処方をするが、その量により人工芝の値段や耐久性が異なる
  - ・ 室内用の人工芝を誤って屋外で使用するとすぐに劣化する
  - ・ 輸入品については統計データがないため状況不明
- 大阪府立環境農林水産総合研究所 荒川様より資料1－3に沿って説明
  - 事務局、大阪商業大学 原田准教授より資料1－4に沿って説明

【ご質問・ご意見】

〈原田准教授〉

- ・ 岡山県真庭市では生ごみの堆肥化をすでに進めている
- ・ 品種や生育状況によって変わってくるが、化学肥料を使う場合などもある
- ・ 被覆肥料だけでなく、良い方法を組み合わせていくことも重要

〈ごみゼロネット大阪 北井副代表理事〉

- ・ ウレアホルムの環境負荷、安全性に問題はないのか  
⇒環境負荷等に関して問題のある素材ではない（研究所）
- ・ 被覆肥料を生分解性のバイオマスプラスチックにすると効果が大きいのでは  
⇒生分解性プラスチックもただちに分解するわけではなく、またポリ乳酸が生育を阻害するケースもあり、生分解性プラスチックが全てを解決するわけではないと考える（研究所）

〈宇山教授〉

- ・ 肥料の被覆を生分解性プラスチックで代用することは難しくない
- ・ 作る企業がそれを実行するかどうか、商売になるか否かという問題
- ・ ウレアホルムについて、ホルマリンの流出が社会問題になっている

〈原田准教授〉

- ・ 被覆肥料カプセルの生分解性プラスチックでの代用について、技術的には十分可能だが、分解速度等、流出時の特性を考えると難しい部分もあるのでは
- ・ ウレアホルムについて、尿素価格が乱高下しているため、農家にとっては調達しにくいという課題がある

(2) プラスチックごみ排出抑制事業スキーム分科会の取組みについて

- 事務局より資料2－1に沿って説明

- 三菱ケミカル株式会社 小林マネジャーより資料2-2に沿って報告
- 事務局より参考資料6に沿って説明
  - ・ 令和4年度の知事の重点分野として、プラスチックごみ対策の推進を掲げている
  - ・ 来年度の実証事業実施のための予算も確保済

(3) その他

- 事務局より象印マホービン「MY BOTTLE CLOAK」の紹介

【ご質問・ご意見】

〈花田教授〉

- ・ スターバックスの取組み「Re&Go」のご紹介
- ・ 個々の技術を進め、デジタルトランスフォーメーションをうまく使うことによりさらなる循環、コストの削減が期待できる

〈2025年日本国際博覧会協会 永見部長〉

- ・ 日本、世界と発信し、レガシーが残るような博覧会にしていきたい
- ・ 技術面や仕組みの面で皆様との協働が不可欠と考えている
- ・ アイディアなどあれば気軽にご連絡いただきたい

〈原田准教授〉

- ・ プラスチック製品の循環にかかるコストが市場の外部にあるのが現状
- ・ リサイクルのコストを負担しているのは行政、ひいては府民の税金
- ・ コストを誰が負担していくのか、社会の仕組みづくりをしていく必要がある

〈花田教授〉

- ・ 社会のシステムそのものを変えることは1自治体でできることではなく、拡大生産者責任を進めてほしい
- ・ 現在取組みをされている先行者が報われるような社会になればと考えている